

移転準備のため長期休館しています

歴史民俗資料館は令和3年4月1日から、所蔵資料の整理や新施設への移転準備のため休館しています。



©NIIZA CITY2010

現在の片山の地に開館してから40年、失われつつある

「わがまち新座」の歴史や民俗を後世に伝え残し、また郷土への理解を深めていただく場として様々な展示やイベント等の活動を行ってまいりました。

多くの皆様にご来館、ご協力いただけてきましたこと、心よりお礼申し上げます。

さて、新しい施設は野火止二丁目（新座消防署隣、新座中学校向かい）に保健センターとの複合施設として令和5年4月にオープンする予定です。

川と湧水に育まれた歴史豊かな黒目の里・片山の地から、名刹「平林寺」や史跡「野火止用水」^{ゆかり}所縁の野火止の地に移ることになりますが、これからも引き続き新座市内の歴史や民俗を次の世代に残し、語り継ぐ場として皆様とともに歴史を紡いでいきたいと思っています。

新しい歴民で皆様にお会いできることを楽しみにしています！

歴民の歩み その1 「郷土資料館」の誕生

歴民が開館する前に「郷土資料館」（右下の写真）があったことをご存知の方は少ないと思います。今の歴民の前身とも言える「郷土資料館」は昭和53（1978）年、市制施行8周年を記念する事業の一環として旧片山公民館（現存せず）を改装してオープンしました。

その後、歴民が現在の場所に新設されることが決まったため、わずか3年で閉館となりましたが、



©NIIZA CITY2010

「郷土資料館」に展示されていた資料や「失われつつある歴史や民俗に関する資料を後世に伝え残す」という理念は現在に受け継がれています。



（旧郷土資料館）

歴民の歩み その2 「歴史民俗資料館」の開館

「郷土資料館」は、昭和56（1981）年11月1日、「新座市立歴史民俗資料館」として現在の場所に開館しました。昭和50年代から、市町村単位での資料館や博物館の建設が各地で進められるようになりましたが、当館はその先駆けとして建設されたことから、県内外の注目を浴び、専門書にも紹介されました。

【開館当時の資料館】→

昭和56（1981）年に撮影されたオープン直前の写真です。今では「歴民桜」の愛称で親しまれている桜の木も植樹されたばかりで、まだ姿が見えません。



←【現在の資料館】

上の写真は令和3（2021）年、ほぼ同じアングルから撮影したものです。「歴民桜」も樹齢40年。歴民とともに立派に成長しました。

✓「昔のくらし」や「野火止用水」などの勉強に多くの児童も来館しました。



歴民の歩み その3 「これから」の歴民

歴史民俗資料館は令和3年4月1日から2年間休館し、保健センターとの複合施設として令和5年4月オープン予定です。

現在、工事に向けての実施設計を行っています。なお、基本設計については以下の市のホームページでご覧いただけます。

◇（仮称）保健センター・歴史民俗資料館

複合施設の基本設計が完成しました

<https://www.city.niiza.lg.jp/soshiki/98/kihonsekkei.html>



完成予想図

【お知らせ】 「歴民だより」は新館開館までお休みします。